

2017年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS大学進学コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現	生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する	B	コース職員会、各模試の結果の報告	より良く共有できるように工夫していきたい
		個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる(1年)	C	早期から意識付けし計画表を提出させるなど計画的学習を心がけた	家庭の協力も必要なため保護者懇談会でも働きかける
		実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす(3年)	B	最後まで諦めず、休日も学校で勉強するなど努力した	担任だけでなく教科担任など多方面からもより多くのアドバイスをしていきたい
		「総合的な学習の時間」、「大学見学」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる	B	模試の結果などを踏まえ自分の立ち位置から目指す大学への意識付けになった(2年)。	大見ツアーをより良く充実したものにしていきたい(2年)
		「寺子屋学習」および「スタディサプリ」等の活用により、個々の学力の伸長を目指す	B	熱心に遅くまで勉強する姿が見られた(寺子屋) 全国と比較してよくやっているが、個々でやっている時間に差がある(サプリ)	8限後も居残って勉強するときの時間設定と学習内容は明白にした方が良い(寺子屋) 全国の高校生の様子を知るなど外からの刺激を通信等で示した方がより取り組むと思う(サプリ)
		新テストに向けての検討を行っていく	B	追試・特別授業などを通し基礎力の定着を繰り返し行っていく	基礎力を活かした論述力の強化もはかりたい
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、生徒それぞれが創造的・創作的にテーマに取り組みプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。	A	それぞれが課題を設定し、主体的にその問題解決に向けて取り組み、論理的にまとめ、プレゼンテーションによって他人に伝えることができた。それを、ディスカッションを重ねることでさらにお互いに学び合い知識を深めることができた。	それぞれの取り組みを学年進行だけでなく、全体の取り組みとして、組織的かつ体系的なものにしていかなければならない。
		系統別のカリキュラムでは、授業による知識の定着と、現場での実習による実践力をバランス良く習得し、生徒の進路実現の推進力とする。	B	保育、看護などへの進学はもちろん、その先に有意義となることを、ボランティア体験も含め積極的に各分野学ぶことができた。授業などで学んだことと、現場での実践を組み合わせることでより、生きた学問を得ることができた。	更に幅広い分野での、探究的な取り組みを実践していかなければならない。
		新テスト導入を見据え、一般教科中心に学力の伸長を目指し、従来の推薦入試およびAO入試のみでなく、一般入試でチャレンジできる生徒を育成する。前述の一般入試に対応できる学力習得を目指しながらも、2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを早い段階から身につける。	A	小論文指導などは、それぞれのレベルに合わせたバランスの良い確かな指導ができた。生徒に考えさせる力、まとめる力、伝える力を意識させながら実力を定着させていった。外部の小論文模試なども効果的に活用	基礎学力の定着、そのことに対する生徒の意識付けを徹底していかなければならない。そのためには教師陣の意識の共有も大切である。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、そこで様々な体験をすることで、これからの社会を運営する構成員として、自立した1人の人間として生きていくための総合的な力としての「人間力」の育成に努める。	A	部活動や生徒会活動などを通して、周囲に人間と協働することの大切さと、多様化する価値観への対応力、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。他人のために頑張ることの大切さ、そこから来る充実感の重みを実感として学ぶことができた。	授業と課外活動が、どちらも力強い車の両輪となるような、バランス感覚に優れた活動をより一層目指していく必要がある。そこから得られる人間力の成長を、生徒がしっかりと実感できるように評価しなくてはならない。
美術工芸コース	希望進路の実現	キャリア教育を踏まえ、進路実現のため、適切な支援を行う	A	美大進学、卒業後の実態、可能性についての講演会	
		専門実習の充実と共に学力向上、美大入試科目の充実を図る	A	基礎力、デッサン力の向上、入試科目に個別対応	
	生徒の心身の充実	アートセンター(美大予備校)及び美術大学との連携	A	長期休業の講習会参加、情報交換がまめに行われ	
		教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う	A	生徒の情報交換をしながら取り組んだ	
	生徒作品の充実	美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進、成長を図る。	A	生徒の興味関心を探りながら、授業を行った。	
公募展に積極的に挑戦したり、更なる美工展の充実を図る		A	中信美術展に出品、入選受賞を果たした。		
生徒募集活動の活性化	美大進学—就職を意識した、募集活動の検討、実施	B	信州アートフェスティバルを大町白馬方面で見学。彫刻家細川宗英展の見学の実施	美術工芸系統の宣伝、周知の為、方法や強化の検討	
	美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育の検討	A	女子美のキャリア教育担当部長を招いて講演会実施		
スポーツサイエンスコース	競技力・競技実績の向上	競技ごとに目標設定をし、目標達成に向けた指導計画に基づいた段階的な指導を行う。生徒個々の特徴をより引き出せるような指導法を日々探究する。学校内における様々な機関と連携を取り、各部に合った柔軟な指導体制を確立する。	A	各部の実状に合わせ、各顧問を中心とした、目標達成に向けたアプローチが十分になされている。各種大会において上位の成績を収めることもできた。今後は長野県優勝、または全国大会での上位入賞ができるかどうか課題である。	長野県優勝、全国大会での活躍を目指す為、校内における各部署との連携をさらに図り、学校としてのバックアップ体制のより充実を求めていく。ハード面の整備と、選手育成の指導体制をより充実したものにしていく。
		各々の習熟度に合わせ、基礎学力の定着から上位層のさらなる学力向上を目指す。自立した生徒を育成し、コミュニケーション能力の向上と集団の中でリーダーになれる人材を育成する。	B	上位層が部活と勉強の両立を成し遂げ、希望進路の実現に至った。その反面、基礎学力の定着が不十分であった生徒も見受けられた。学校内、グループ内で、高いコミュニケーション能力とリーダーシップを発揮し、様々な場面において牽引し生徒個々に目を向け、それぞれの希望進路が実現できるよう進路指導に力を入れることができた。競技力を活かし進学をする生徒と、勉強で進学する生徒に対してそれぞれ個別の指導を行うことができ、希望進路の実現に至った。	学力層に幅がある為、基礎学力の定着が不十分な生徒に対して、習熟度に応じた学習環境を整える必要がある。高校以前の学習の復習を行い、基礎から見直しをさせる機会を設けることが必要である。
	希望進路の実現	競技力・競技実績の向上と、学力向上・人間形成を両立させることで希望進路を実現させる。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を担任と連携を取りながら行っていく。進路開拓の為の大学訪問を積極的に行う。	A	進路開拓は今後の継続的に必要とされる	大学で継続してスポーツを行う生徒が多くなってきたことから、より選手個々の競技力の向上を目指し、セレクションへの対策も行っていく。また、進路開拓の為の大学訪問を積極的に行っていく。

2017年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
食物科	高いプロ意識を持ち、食生活の向上及び食文化の創造に貢献できる調理師の育成と、希望進路の実現	指導の工夫や補講等で、知識・技術のよりいっそうの定着を図る 他校の実践も参考にしながら授業を構築していく	A	知識技術に関しては、一定の定着を図ることができた また、授業内での補習を行なうことができた 1単位35時間を確実に確保することができた	技術の向上に関しては反復練習が必要 他校の補講、追試方法等をさらに研究したい 食物科独自の研修旅行を通して、より一層の意識とレベルの向上を目指していく
		各学年における課題研究の目標を明確にし、3年次の卒業記念作品展に繋がる指導体制を整える 卒業記念作品展については内容の検討を行う	A	各学年での学習内容や経験が、着実に3年次の卒業記念作品展に繋がりが良い成果をもたらしている 卒業記念作品展を中学生にも見学可能にすることができ	卒業記念作品展の更なる充実を図るため、日程や内容の検討を引き続き行なっていく
		土曜授業、特別授業、高校生レストラン及び各種コンテスト等への取り組みを通して、自ら考え行動する力、コミュニケーション能力、協調性、創造する力を育む	A	生活産業基礎の土曜校外授業は大変効果的であった 土曜授業での発表の場を通して、プレゼンテーション能力を高める機会が増えている コンテストへの参加見学は、モチベーションや技術の向上に繋がっている	2クラス合同や学年の枠を超えた授業で協調性を育む 引き続き各種コンテストへの参加を呼び掛けていく 松本市と連携した地域の食文化継承・食生活向上への貢献
		きめ細やかな指導により早い段階から目標を持たせ、希望する進路の実現を目指す	A	進路開拓を行ない、県内外の有名店への就職を実現することができた。進路選択の幅を広げることができた	早い段階からインターンシップを行ない、進路への意識を高めていく。更なる進路開拓を行ない、生徒の進路実現を目指していきたい
1学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材になるための基礎固め	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。	B	遅刻者・ポイント指導者が少なかった。	日頃から、規則正しい生活を定着させる。
		学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	B	入学時に比べ学力を伸ばした生徒が多かった。	家庭での予習、復習はもちろんのこと、スコラノートを用いて、学習計画を立てたり、振り返らせたりする。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。	B	部活動、生徒会活動に積極的に参加している。	部活動、生徒会活動の質をより向上する。
		他者への思いやりの意識をもたせる。	B	多くの生徒が周りへの配慮を心掛けて生活を送っている	定期的なアンケートの実施と、担任による面談を行う。
		将来の進路について意識させる。	B	職業別ガイダンスでは意欲的に参加する生徒の様子が見られた。	進路ガイダンスの開催時期と開催方法の検討。
2学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材への発展	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる	A	学習環境の整備と提出物厳守	継続的に毎朝チェック注意を行う
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める	B	教科を中心にして意識的に行われた	広い視野で物事を考察できる力を身につけるよう努力が必要
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する	B	旅行委員会、クラスマッチなど生徒が運営している場面が多かった	もっと生徒が主体的に活動できるよう仕向ける
		自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる	A	グループ行動においてその様子が見られた	HR運営とバランスのとれた席配置などの工夫必要
		将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる	B	ガイダンス・希望調査・面談・模試を通して早めの進路意識を高めていく	進路実現に向け多方面から意識付けをしていく
		沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる	A	計画的な学年集会と主体的な平和学習が出来るよう事前事後指導ができた	旅行会社とともにより良い旅行になるよう工夫必要
3学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材の完成	新選挙法施行に伴い、18歳選挙権に対応できるように主権者教育を行う	C	旅行のための学年集会が主体となり実施できず	次年度でやる機会を設ける
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める	A	授業の他にも、小論文模試・進路ガイダンスなど思考力を高める企画を行った	
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する	A	HR活動だけでなく、生徒会活動・部活動なども通じて、自らの意志で行動できる生徒が増えた	
		自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる	A	一昨年度や昨年度の教育講座で培った意識が継続でおおむね第一志望の進路を実現できた	
		希望進路を実現させる	A	一般受験者に対して学年としてどう対策していくのかという点で課題が残った	
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする	B	もう少し意識を高める必要がある。	各委員会活動を活発にしてもらうため、委員長、副委員長との連携を強くさせる。
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく	A	活動は多くなったが、内容を濃くすることが課題。	執行役員や先生方との連携を強くする。
		東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる	A	活動を多く行った。	もう少し活動の幅を広げてほしい。
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする	A	生徒が主体的に考え、実行した。計画的にできないところがあったが、教員が助言するなどして形を作った。	スタッフ以外の活動の幅を広げ、先生達に仕事をもう少しふれば良い。
課外活動の充実	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展させる	A	活動時間の確認(通常、テスト前、テスト期間中)	退部届けの扱い方の検討、更なる競技力向上の研究を行う。	
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決(生活相談と連携)	A	全校生徒対象の定期的なアンケート実施により迅速な対応ができた。	
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実(生活相談・特別支援と連携)	A	生活指導・生活相談・特別支援が連携し対応できた。	
	先生方の実効性ある指導が奏効するための下支えとなる基本的な	学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指導	A	各担当部署と情報を共有し効果的な活動ができた。	
		教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構築	A	報告・連絡・相談により構築。	
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実	A	教育講座を主に事前・事後学習が継続的にできた。	
		情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実	A	集会や教育講座などを活用し啓発活動ができた。	
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討	A	報告・連絡・相談により有機的な対応ができた。	
		懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底	A	教職員間の情報共有により迅速に対応できた。	
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止	B	貴重品管理預かり・校内巡視などを継続実施。	教室ロッカーの使用規定見直し。
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ(交通安全)	B	駅前指導・登下校指導・校門指導などを継続実施。	駅前指導・登下校指導・校門指導の再検討。
生活指導方針の周知・徹底	在校生と保護者への積極的な情報提供	A	全校・学年・クラスなど段階ごとの活動ができた。		
	受験予定者と保護者への積極的な情報提供	A	中学校講話講師派遣や保護者ハンドブック配布などにより周知・徹底できた。		

2017年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
進路指導部	適正な自己認識と進路選択を促しつつ、各生徒の第1志望校への合格と就職未決定者ゼロの実現	適切な情報誌の配布、有効資料の提示、さらに資料の整理	A	螢雪時代、AO入試年鑑、推薦入試年鑑(栄美通信)、「栄冠めざして」(河合塾)また、看護系学校の資料等、今年度の生徒の希望に即した情報誌を配布できたと思う。また、進路室内で過去の受験報告書を閲覧する生徒も増えてきたと思う	さらに生徒が活用しやすい進路指導室になるよう工夫したい。
		学年集会や進路通信などによる啓蒙と伝達	B	1学年集会、3学年集会を通じ受験形態のことや、推薦入試の活用についてなど話すことができた。さらに細やかな指導の必要性を感じる。	通信を使って受験情報を伝達したり、勉学の取り組みについての啓蒙を進めたい。
		学年ごとのカウンセリングや、説明会の実施	B	系統別の分科会形式で学校や学部内容の紹介、推薦入試や就職試験のための面接指導の実施、信州大学に特化した説明会や公務員試験対策講座など実施したが一定の成果は上がったと思う	企画が単に昨年度の踏襲にならないように、次年度3年生の進路希望をより適切に把握し、状況に即した機会を設けていきたいと思う。
		自己理解や基礎学力の定着を促す検査や検定の実施	B	上記のガイダンスに加え、(2年時から)「進路希望調査」を複数回提出させ、主に担任との面談を通じ生徒個々の進路意識を明確化させたり、悩みを把握することができた。学年ごとの職業適性検査とは各学年会の意向と聴きながら実施を取りやめた。	生徒個々の状況を、少なくとも3学年の教員団の共通認識として把握できるよう工夫したい。学年全体として基礎学力定着のための検定等あれば、検討したい。
		面接や小論文指導を通じて高校生として、あるいは社会人としてのマナーの定着を図る	B	面接試験を控えた生徒の面接練習を、多くの教員が協力して実施することができたと思う。	面接練習をもう少し計画的、合理的に実施できるよう計画したい。
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める	A	時間割係を中心に選択調査を一元化し、PCへの記入も一本化できた。	LHR等を計画的に利用して、早い時期から生徒の意識を啓蒙する。
		授業変更・自習監督の円滑化	B	ほぼ円滑に実施できたが、曜日教科によって変更監督が固定化してしまった。	選択授業・習熟度が減っていくので、授業変更を中心に円滑化したい。
	来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携	B	教頭を中心に連携はできた。	更に緊密な連携を模索したい。
		各教科との連携	B	時間割係からの早い連携で円滑化が図れた。	教科会での検討を計画的に実施し、連携を図りたい。
	学力向上を目指す	特別授業の充実・新テストへの対応	B	科・コースの協力のもと夏期・春期と前年度より充実できた。	コース・系統の学力向上計画に合わせた特別授業の実施と平常の授業のレベルアップを図る。
	成績処理の円滑な運用	担任が把握しやすい処理の流れを構築する。	A	成績に関係する資料等の作成が、担任がスムーズにできるようになった。	新しい形式に対応するシステムを構築する。
	憲法人権平和教育	憲法施行70周年を迎え、主権者として憲法改正について考えさせたい。	B	原子力の歴史と現状を理解し、平和な社会を実現するために何が必要か考えることができた。	計画を立てる時期が遅く、講師との打ち合わせが不十分だった。年度初めには計画を立て十分に打ち合わせを行う。
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底	A	外部への連絡も徹底できた。月曆を早い段階で周知できた。	関係部署と緊密に連携する。
		ミスをなくす	B	更に複数の視点での注意を増やす。	早い時点で計画を示し、複数の視点で点検をする。
		反省の集積	B	各行事を教務を中心に計画することにより反省を次年度以降に集積できた。	USB等に記載を早めにしていく。
	適正な定員確保のための入試	基準の見直し 入試内容の検討	B B	コース改編につき各部署で検討した 各部署で検討できた	
	間違いのない教科書選択	各教科・教科主任との連携	B	早めの提出を呼びかけて、ほぼ期限を守っていただくことができた。教科によって、非常勤の先生の教材の確認がうまくいかない所があり、変更しなければならないこともあった。	各教科主任の先生方にさらなる協力を求めていきたい。
円滑な教科書販売ができるような支援		B	水琴堂の小松さんに頼りきりになってしまった。	学校での締切など、守れることはしっかり守り、迷惑をかけないように呼びかけていきたい。	
図書視聴覚部	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。また、教員がスムーズに機材を操作できるように環境を整える。	B	積極的な視聴覚教材の利用が見られる教科は少ないが、教科の特性、カリキュラムなどを総合的に考えると許容範囲。	今後の学校諸活動のデジタル化に向けて様々な角度から検討していく必要性がある。
	図書館利用の活発化	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化。	B	雑誌アンケートを実施し、新しい雑誌を入れた。委員会を中心に、イベントを開催し利用者増につなげることができた。	本の管理をしやすくするためにも、バーコード化の研究をしていきたい。
	読書活動の推進	生徒が親しみやすい本の選定。読書週間を設ける。	B	生徒が読みやすいオレンジ文庫などを入れた。先生方の推薦図書冊子を作成することができた。	先生方の推薦図書冊子をもう少し早い時期に作り、読書に親しむ機会を増やしていきたい。
環境衛生部	生徒の心身の健康問題の早期発見・早期対応	検診で指摘を受けた生徒への年4回の受診勧告と顧問への勧告を行い、各科目標受診率を達成する。	B	部活単位の勧告も実施し、前年度よりも受診率は向上したが、内科・歯科・尿・視力で目標達成できなかった。	次年度も継続して勧告を行い、受信勧告を定着させることで、受診率の向上を図る。
	健康啓発活動の充実	感染症り患者が出た場合、早期に全職員へ周知徹底し、生活習慣を見直させる指導を促し、感染拡大防止措セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。	B A	早期の周知徹底により、感染拡大を防ぐことができた。 引き続き浸透させる。	換気の徹底のため、校内放送を活用し、換気を促す。
	学習環境の整備	教師生徒による全校清掃の徹底と、校内巡視による校内美化の注意喚起	A	行事前の清掃の徹底も行い、校内美化に取り組めた。	各クラスの清掃分担場所の適正な配分の計画を立てる。
	資源の再利用	ごみの分別の徹底と、資源の有効活用を行う。	B	清掃委員会・環境委員会と協力し、校内基準での分別、紙パック・ペットボトルキャップの回収ができた。	容器包装材の分別を検討する。
	防災意識の定着	年2回の防災訓練の実施。	B	1回の実施に留まったが、避難訓練の際に消防署の方に講話をしていただき、防災の意識づけができた。敷地拡大により、さらに安全な避難場所を設定することができた。	地震、火災以外にも、Jアラート等での避難訓練を計画し、実施する。 新しい避難経路を徹底する。

2017年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する	学級・学年PTA活動の充実	B	高校生レストランの生徒達がお弁当を提供したことにより、学級・学年PTA、総会の参加人数が増えた。	学校と家庭との連携をより一層深め、PTA活動がより一層充実するよう努めていく。
		地区PTA活動の充実	B	地区PTAが開催されない地区があった。	地区PTA実施地区を増やしていく。
		委員会活動の推進	B	各委員会活動が活発になされていた。	
		研修機会の充実	B	文化祭バザーでは、会員の協力により、大盛況となった	
		総会・役員会・PTA研修旅行の参加者を増やす	B	PTA研修旅行の参加人数が少なかった。参加者を増やしたい。	PTA研修旅行の参加者を増やすため一斉メール等でのお知らせも積極的に行う。
	中信地区私学助成推進協議会の活動を展開	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る	A	担当した木曾地域すべてにおいて助成金を増額できた	
	同窓会組織の充実活性化	PTA、ピーターパンなど他団体との協力を図る	B	他団体と連携を必要とする機会がなかったのではない。	必要になった時に連携を図っていく。
		イベントを組むなど総会を有意義なものとして参加者を増やす工夫をする	B	同窓会役員の方の協力により、活気ある同窓会になった。	同窓会役員と連携を取りながら更なる組織の充実化、活性化を図る。
先生方の協力を仰ぐ		B	一部の先生方へ出席して頂いた。	積極的に先生方の出席を促す。	
役員会の開催		A	同窓会役員改選により2回の開催となった。	次年度も行う。	
安全管理委員会・個人情報管理委員会	学校内の安全を維持し、災害やトラブルを未然に防止するための諸活動を行う	あらゆる災害やトラブルを想定したマニュアルの点検と浸透のための諸活動を行う	B	気象の急激な変化に関する緊急連絡の決め方について、マニュアルはあるものの、多様な立場の方々のご助言により多面的な判断をしていただき、奏効した。	更なる研究が必要。
		教職員側の教育活動における人道的観点の維持と浸透を保つ諸活動を行う	B	引率運転については、各教員の過去の様子の把握、あるいは、保護者に対して納得が得られるガイドライン作り、ならびに配布ができた。	更なる研究が必要。
	校内の教育活動において各教職員が「個人情報の保護に関する法律」ならびに「長野県個人情報保護条例」など関係法令を遵守する環境を整備する。	「個人情報の取扱ならびに管理方針(プライバシーポリシー)」の点検と浸透のための諸活動を行う。	B	特になし。	特になし。
		上記の「管理方針」とは別に設けている「日常的教育活動におけるガイドライン」に沿って教職活動が行われているか確認をする。	B	特になし。	特になし。
学校衛生委員会	健康課題の把握・対策	情報交換会を開催し、専門の立場からの助言をもとに対策をたてる。	A	校医の先生方と情報交換会を行った。	引き続き次年度も行う。
広報企画委員会	生徒募集ならびに本校の良さのアピールに有効な広報の手段(媒体と内容)を考え、それを連動させた年間計画を立て、予算の範囲で効果的な広報活動を行う。	冊子類(スクールガイド)・新聞広告・チラシの作成、ならびに、それらが進路講話や学校説明会などと連動した構成になるように組み立てていく。	B	オープンスクールなどに本校生徒の発表を加え、またチラシと新聞広告なども組み合わせる工夫ができた。また、来年度のための質の向上と支出抑制を両立させるために、配布冊子の業者選定のためのコンペを実施した。	コース・系統再編との同時進行で、作業がかなり難航した。この点は仕方ないとして、来年度には早い着手をする。
部活動後援会	部活動の効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する。	A	適正に補助金を支給した。	旅費の配分を検討する。
	部活動活性化の予算配分	部活動活性化へ予算配分を適正に検討する。	A	検討した結果、差はつけないと判断した。	今後さらに検討していく。
将来構想・少子化対策委員会	将来構想	60周年へ向けての準備委員会の立ち上げ	B	平成30年度に創立60周年記念事業準備委員会を立ち上げる。	具体的な計画の企画立案を平成30年度の創立60周年記念事業準備委員会で行っていく。
	少子化対策	在校生に還元する投資を考え、広報活動につなげていく	B	校舎改修の案を提示した。	校舎改修の詳細について立案していく。
学力向上・新テスト担当委員会	生徒の「基礎学力」と「思考力」を向上させる仕組を構築するための諸活動を、各科コースと各教科の両方に横断的に働きかけながら行う。	その諸活動の成果として進学実績が伸びるよう、進路指導部と教務部と連携し、各教科との対策案をまとめ、実行する。	B	『Daiichi Standard』の冊子化、ならびに「奨学生・推薦入試生のオリエンテーションによる実態の把握」、「プレ課題」「Dゼロ」など、形になったものもあるが、一番の課題は、その後、その生徒らを受け入れる体制の整備。進路指導部と教務部との連携が奏功している。	実行に移す原動力となる。教員の足並みをそろえる環境づくり。
	やがて導入される「新テスト」について研究し、その対策としての諸活動を行う	情報の収集と分析に努め、職員の研修会を行い共有する。その上で、進路指導部と教務部と連携し、各教科との対策案をまとめ、実行する。	B	新テストに関する情報公開が段階的であることから、文脈を読む、あるいは業者からの情報によるところが多い。	更なる研究が必要。
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊かにし言語文化に対する関心を深める。	漢字検定全校受験	A	公式会場として漢字検定を4回実施した	合格率の向上を促す
		小論模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける	B	科コースの担当毎に実施した	今後多方面で研究することが望ましい
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習	A	授業を中心とした展開を行った	相互の教員の連絡を密にし情報交換、研究を進める。
		一般・推薦・AO入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う	A	各教員が空き時間、放課後を利用し必要な生徒に対し、個別指導を実施した	他教科とのチームティーチングをも進める

2017年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく	B	教科アンケートを活用しながら、各科・コースに応じた指導力の向上に努めた	基礎学力だけでなく、思考力なども伸ばせるような授業を模索していく また、アクティブラーニングの機会を少しでも増やしていく
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する	B		
		思考力・判断力・表現力を育成するよう、授業やテストを工夫する	C		
	主権者としての自覚向上	授業等を通して、主権者としての意識を高める	B	今年度は2学年現代社会の授業内で行った 来年度は、学年とも連携を取って進めていきたい	
数学科	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。	B	年に3回行えたことは良かった。もっと合格者を出せるように指導する。数学検定の内容を提示し、関心を高められるように声掛けをする。	授業での声掛けを多くし、授業の中でも数検の問題を扱う。
	各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。一斉テストを行い有効利用することで学力向上を図る。	A	課題は、家庭学習の定着をさせることである。	副教材の課題よりもプリント課題の方が提出率が高いため、プリント課題を定期的に出す。
理科	理科の基礎学力の定着と、発展的な内容にも対応可能な科学的応用力の向上。	全科・コースで、教科書内容を一通りしっかりと学ぶことにより、高校生として学ぶべき必要最低限の知識・技能を身につける。	B	ほぼ全ての科・コースで教科書の内容を終わらせることができ、必要最低限の知識・技能の習得に結び付いた。	授業進度を若干早めることで、ゆとりをもって教科書の内容を終わらせ、その分を演習等を行うことでさらなる知識・技能の定着を図る。
		実験や教材等を効果的に活用したり、身近に感じやすい現象を説明したり、印象に残るような授業展開から、自然科学に対する理解度を深める。	A	生徒実験までできなくても、演示実験や身近な自然現象に結び付ける説明により教科書の内容を実生活等に結び付け、自然科学に対する理解を深めることができた。	新しい大学入試により対応するために、『答えの無い問い』に論理的アプローチができるような課題を設け、演習する機会を設ける。
		問題演習、小テストを通しての基礎学力の定着を図りながら、科学的な思考力・応用力を付けることにより、学力の向上を測る。	B	SS大学進学コース、総合進学コースを中心に行うことができたが、他の科・コースでは十分な時間の確保ができなかった。	授業内で十分な時間が確保できない場合、宿題を増やし等の対策を取り、より学力の向上に努める。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握	A	仲介業者を入れて全国平均等も見やすく、継続をして	特になし。
		バレー・バスケットによる集団スポーツでの体力とコミュニケーション能力の育成	A	良い。	特になし。
		柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成	A	良い。	礼法に徹底した。
	心と身体の育成のために・・・	「心と身体のバランス」の重要性についての育成	A	良い。	特になし。
		青春期の「性」に対する考え方の育成	A	良い。	特になし。
		現代の「少子高齢化」「社会保障」等の諸問題の育成	B	時事問題をより入れることで理解を深められた。	新聞記事等をより活用する。
保健授業でのアクティブラーニングの導入	プロジェクターやPC等を使いグループ学習を取り入れる。	B	Ipad等を使いプロジェクターを活用した。	よりグループ活動を取り入れる。	
外国語科	基礎学力の充実	生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開 小テストなどを取り入れた基礎内容の定着	A	習熟度別講座展開により、無理のない授業進行や、講座に合ったテスト展開をすることができた。	基礎学力定着のため、各講座で小テストを効果的に取り入れるなど、さらに授業の充実をはかる。各講座の到達目標を定める。
		定着させた基礎内容を応用した問題解決能力の育成	B	授業やテストに暗唱を取り入れることで、自然と基本的な英文を身に付ける策を取ることはできたが、応用へ活かす点で課題が残っている。	どのように応用させるのか、授業内に運用するための活動の取り入れ方について、実践しながら、研究を進める。
		高等学校基礎学力テストを視野に入れた、教科書を最大限活用する4技能を意識した授業展開	B	暗唱を取り入れることで、自然と4技能を使うための基礎を身に付けている。本文以外の教科書の利用の仕方について、さらに検討が必要である。	教科書を上手に利用したS技能の授業展開について、実践を通して、研究を進める。
		長期休暇の各講座に適した課題提示と課題内容理解度の確認	B	休み明けテストの実施と、事前の課題提示ができた。さらに内容の検討が必要である。	長期休暇の学習促進を図る課題提示を行い、定期テストと上手に連動させていく。
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強しながら、自ら発信する力の育成	A	ALTの関わりのおかげで、特にスピーキング面において生徒が前向きに取り組んだ。	様々な講座で積極的にALTの活躍場面を設け、生徒の4技能向上を目指す。
	進路実現のサポート	センター・二次対策・私大入試に向けた問題演習と個人指導	B	問題演習の機会は数多く持つことができたが、個々の志望校対策に課題が残った。また、担当の先生に任せきりになってしまった。	模試等を活用した面談を通して、生徒が主体的に志望校分析をしていくよう促す。また、科全体として個々の生徒の志望校対策について検討する機会を設けたい。
		サテライト教材の活用	A	サテライト教材への生徒の興味関心が高く、積極的な参加が見られた。例年は行っていなかった1・2年生でもサテライトを実施することができた。	生徒が主体的に教材を活用していただける体制を作り、今後も上級生が使ったものを下級生も上手に利用できるように連携を取っていく。
		英検の受験促進および二次試験面接指導	A	面接指導が攻を奏し、英検二次試験で高い合格率を上げることができた。	英検受験者を増やすような働きかけをし、面接指導も継続して行う。
	教科会として教授法の研究	大きく変革していく大学入試を見据え、4技能の向上を目指す授業方法の研究と実践例の共有	B	個々に研修に参加することはできたが、全体として研究するまでに至らなかった。	教科会を通して、授業実践の共有や、各種研修会へ参加し、さらなる知識を身に付けていく。
	芸術科	情操教育の充実と集中力の育成	1人1人の個性を尊重し、自立した表現を目指す	A	一人一人の個性を引き出し、考える力と表現する工夫ができた。
家庭科 (専門教科)	実習を通してより高度な技能の習得を図る	3年まとめの実習・発表の実施 総合調理実習の構築	B	新カリキュラムとなり初めての総合調理実習であったが、授業の組み立てがうまく行かず、指導が行き届かない部分があった	今年度の反省を活かして、授業時間の設定を考慮し、生徒の自主性を重視した授業を構築していきたい
	座学と実習、各専門教科を関連付けて学ぶ	実験などを取り入れながら、より体験的な学習を行う 調理の技術だけでなくマナーやサービスについても学ぶ	A	1年生では、サービスやマナーの授業を行なうことができた	校外でのサービス実習の検討が必要 実験器具の補充を行ない、実験内容の充実を図って プロ意識の向上と技術を身に付けさせるための工夫を行ない、そのための機会を増やしていきたい
	課題研究の充実	各学年での目標を明確にする。また、食物科の生徒として、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせる	A	講演等の実施により、様々な問題に関心を持たせることができた	

2017年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
家庭科 (一般教科)	生活者として自立するための知識や技術の習得	衣・食・住に関する実習の充実やグループ学習を通して、知識のみならず体験的な学習も行っていく 「自立する」「共に生きる」をテーマに、社会問題についても啓発していく	A	実習を通して、基礎から応用まで学習させることができた。社会問題への興味関心を持たせることができた。	学習する内容が多く、時間配分に苦慮した。ポイントを絞って学習させていきたい
	子どもの発達の特徴を理解し、子どもとの関わり方を学ぶ	乳幼児の発達と生活についての知識を習得し、絵本や折り紙などの教材を用いながら実践的な学習を行う	A	実習などを多く取り入れたことで、子育てを身近なものに感じさせることができた	全員が保育業の進路を考えているわけではないので、少しでも保育に興味関心が湧くような内容を検討していく
情報科	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)	A	SNSについて、著作権や肖像権について理解が必要。インターネットを安全に活用することができた。	SNSについて、具体的な例も増えているので示すことにより理解向上する。カメラ付きの端末についての理解を向上する。
	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算)	B	基本てきな技術を習得し、思い通りに使いこなせるようにする。	基本的な技術を習得するために、文字を打つという技術をしっかりと習得させていく。
	コミュニケーションを行う能力を養い	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)	A	グループで発表させた為、よりコミュニケーションの能力を養うことができた。	より個人での調べ学習や表現力を養えるようにしていく。
美術工芸科	美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す	それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身に付ける	A	デッサン指導の強化(基礎分野)を徹底できた	
		集中力・持続力・体力の向上を図る	A	美大受験を見据え必要となる力を身に付けさせた	
		探究心・向上心をもって制作する姿勢を身に付ける	A	生徒一人ひとりのコミュニケーションを増やし意欲の向上を図れた	
		幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身に付ける	A	刺激を与える機会を幅広く計画・実施し、自らの将来を意識させた	